

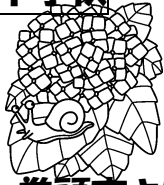
岡崎市立額田中学校

校長室だより

R3. 6. 10

no. 2

「額中タイムス」巻頭言より



Challenge・Respect・Style 敬・愛・信

あなたたちのエールは、私たちに確かに届いた

令和8年5月30日。子供たちは演じ、舞った。表現し、伝え、訴えかけた。全身で表現する喜び。相手に伝わるうれしさ。達成感、そして充実感。回れ右をして退場する。あたたかい拍手。やりきった表情で駆け抜けた。——「額田中体育大会」である。

子供たちは、担任や学年担当と練習を重ねるたびに、大きく変わっていった。棒読みだった台詞は、やがて自信に満ちた「叫び」となり、ばらばらだった動きは、一体感のある「演技」となった。味気なかった材料も、見る人を引きつける「作品」へと姿を変えた。

4月、体育大会の実施にあたり、その目標をじっくりと考えた。

- 1 仲間と競う楽しさ、身体で表現する楽しさを実感させる。
- 2 作品を共に創り上げる素晴らしさを体験させる。
- 3 平素の学習の成果を発揮させる。

改めて目標を見つめ直し、達成できたか自問する。——達成できたと感じている。

「全力は、かっこいい」

それは相手に伝わる。楽しい。うれしい。素晴らしい。そのすべてが、額田中学校の子供たち、保護者、そして学校を支えてくださる皆様に伝わったと確信している。

1人で創るのではなく、みんなで創る。まさに額田中体育大会テーマ「共に創れ、共に楽しめ、最高の舞台を」の通りである。ただ、みんなで創ることは決して容易ではない。考え方も感じ方も、それぞれ異なる。温度差もあるだろう。それでも、1人で創る楽しさを越えて、みんなで力を合わせて創り上げ、それを共に喜び合えるとき——その喜びは、より大きく、より深いものとなる。子供たちは、きっとそのことを実感してくれたに違いない。

担任は約1か月、子供たちと共に考え続けた。子供自身が工夫し、創り上げていく過程を見守り、ときに背中を押してきた。学年や学級は違って、確かなことがある。子供たちは「うちの学級、最高」「うちの学年、最高」「うちの担任、最高」と感じたはずだ。その思いは、やがて「額中、最高！」へとつながっていく。

体育大会を通して、子供たちが大きく成長したこと——それが何よりもうれしい。そして、その成長を我がことのように喜び額田中の教職員すべての思いも、また尊い。子供が成長し、それを実感する中で教師もまた成長していく。すべての子供に光を当て、共に完成を喜び額田中の教職員を、私は誇りに思う。

それを教えてくれたのは、ほかならぬ——額田中学校の子供たちである。

あなたたちのエールは、私たちに確かに届いたよ。